

平成 26 年度 新学術領域研究（研究領域提案型）審査結果の所見

研究領域名	細胞競合：細胞社会を支える適者生存システム
領域代表者	藤田 恭之（北海道大学・遺伝子病制御研究所・教授）
研究期間	平成 26 年度～平成 30 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、細胞競合を制御する分子メカニズムの全貌を解明し、それがどのようにして多細胞生命体の成立原理つまり個体発生や恒常性維持にかかわっているのか、また、その破綻がどのような疾患や病態を引き起こすのかを明らかにしようとする提案である。適者生存の根源となる「細胞競合」のコンセプトは、生物発生の恒常性維持、破綻の重要な位置づけであり、最終的な疾患や病態との関連の解明に大きく波及する展開は興味深く、多面的な研究支援も評価できる。各計画研究代表者は優れた研究業績を有しており、着実な成果と当該研究領域の新たな展開が期待できる。また、研究者間の連携も良く考えられており、シグナル伝達、発生生物学、細胞生物学分野の専門家間での相互作用が期待される。</p> <p>一方で、生物種を超えた「細胞競合」に共通原理があるかについては不確定であり、そのために個々の計画研究における「細胞競合」の概念が共通認識に至っていないことが懸念される。「細胞競合」の背景となる概念を計画研究代表者間で共有することが重要である。</p> <p>総括班は、領域全体の研究方針の策定、企画調整、各計画研究及び公募研究の連絡調整、研究支援活動、研究評価及び成果の発信など、領域の運営を適切に行いうるマネジメント体制となっている。領域代表者は、領域を運営するための基本的な考え方を有し、個別研究間の有機的連携を図るためのリーダーシップを発揮する能力を有すると判断される。また、外部評価委員として国内外の研究者を招聘し、国際レベルで研究を進展させる体制が整っている。</p>